

平成 30 年度 第 1 回 岸和田市観光振興計画推進委員会

1 日時 平成 31 年 2 月 13 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分

2 場所 岸和田だんじり会館 1 階会議室

3 出席者 委員 【学識経験者】

石田 信博、百武 仁志、小川 雅司

【公共的団体の代表者】

土井 康司、中井 秀樹、山本 義治、井上 實、稲垣 康子

【関係団体の代表者】

安田 博宣、中島 徹

【市民公募】

石川 真裕美、小南 嘉則

事務局 大西魅力創造部長、寺本観光課長、中浜参事、高橋主査、武智担当
渡邊（JTB）、柱本（JTB）

傍聴者 なし

4 議事 （1）第 2 次岸和田市観光振興計画の進捗状況について

① 第 1 期行動計画について

② 今後の方向性について

5 配布資料

（1）配席図

（2）岸和田市観光振興計画推進委員会委員名簿

（3）岸和田市観光振興計画推進委員会規則

（4）資料 1 第 1 期行動計画進捗状況

（5）第 2 次岸和田市観光振興計画 冊子

6 内容

（1）開会

（2）委嘱状交付

○大西魅力創造部長

委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見をおきかせください。またご多用中にもかかわらずご協力いただきまして感謝いたします。

平成 28 年度に本市観光施策の指針となります第 2 次岸和田市観光振興計画を策定しました。

観光分野においては、インバウンドの増加がクローズアップされ、観光スタイルも従来の見学型から体験型へと変化しており、観光をとりまくニーズは大きく変化しております。これに対して本市においても観光施策はすばやい対応が求められています。

委員の皆様の経験やノウハウをここでいろんなアイデアとして出していただき、岸和田市の観光振興を一丸となって推進して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(3) 委員紹介

(4) 委員長、副委員長選任

委員長：石田 信博、副委員長：百武 仁志

(5) 議事① 第2次岸和田市観光振興計画の第1期行動計画の進捗状況について

○事務局より資料1をもとに詳細を説明

○委員

観光入込み数の大きな割合を占めるいよやかなの郷の今後について教えてほしい。

○事務局

指定管理の期間が平成31年3月で終了することに伴い、検討を重ねておりましたが、民間事業者のノウハウをつかって施設を活性化するため、民間運営することに決定しました。

今までは研修施設という位置づけであったが、今後は観光施設に用途変更し、自由度の高い運営が可能となることで、さらなる山手地域の活性に繋がると考えている。

○委員

岸ぶらのアクセス数はどれくらいですか。そのアクセスの行動分析は可能ですか。

○事務局

一日平均2万アクセスがありますが、行動分析は難しいです。

○委員

祭礼時の入込み客数も年々減ってきており、その分析ができていないのでは？

○事務局

今年の9月祭礼の宵宮と本宮の2日間でアンケート調査を実施したので、そこから動向調査を行っていきたい。アンケートの分析についてもまずは事務局で行い、結果を会議の場等で委員の皆様にもお示しし、ご意見を頂戴したい。

○委員

アンケートもどんな項目にするかによって、答えは変わってしまうので、その内容も重要。量よりは質だが、だんじり祭は30万人の観光客が来るので、アンケートは有意水準をとっていただきたい。

○委員

全体的に進捗状況に具体的な数字が出てこないなので、それを改善したほうがよい。抽象的な内容では検証は、難しい。

○委員

計画のスケジュールに沿ってしてみると、進捗が6ヶ月ぐらい遅れていると感じる。

○委員

プロモーションなどで市としてPRしていることはなんでしょうか。またプロモーションは広域で連携して行っていると思うが、その際に工夫していることはあるか。

○事務局

だんじり祭もちろんですが、大阪府下で天守閣を持つお城は大阪城と岸和田城だけであり、貴重な資源であることと、外国人にもうけがいいということから、岸和田城を中心にPRしている。また、広域での連携においては、各市町の観光スポットを「体験」や「食」といった分野ごとに分けて発信している。

○委員

まずはターゲットの設定をしてみて、長い期間の計画になるから状況変化したのであれば、それは臨機応変に対応していくべき。

○委員長

せっかくのご意見をいただいたので早急にターゲット設定していただければと思います。

議事②今後の方向性について

○事務局より詳細を説明

第1期の行動計画は、多岐の分野にわたっていますが、行動計画の中でも、観光の時流に沿ったものに重点的に取り組む必要があると考えております。

近年の観光動向を検証した場合、重点的に取り組むべきものとして、インバウンド観光客の誘致が求められているところです。

これら外国人観光客の誘致を促進し、岸和田城周辺の賑わいを創出することで、地域経済の活性化の起爆剤としたいと考えており、来年度以降の行動計画における重点項目として、インバウンド観光の推進を、事務局からご提案させていただきたい。

○委員長

キーワードはインバウンドと岸和田城周辺。体験型交流型というものです。

○委員

質問ですが、インバウンドをターゲットとするということですが、立ち寄り観光なのか、宿泊観光なのかどちらですか。

○事務局

滞在スタイルはこだわらず、まずは岸和田に来ていただいて時間を過ごしていただくプログラムを平成31年度から実践していきたいと考えております。

○委員

それでは先ほど話に出たアンケートはだんじり祭のときにとったもので、計画上、祭は宿泊を伴う観光として想定されているのでずれてくるのではないかと。もう少し整理が必要では？

○委員

インバウンドに期待しすぎてもだめな気がする。

○委員

インバウンドも変化していて、爆買いから体験へと変わってきているし、リピーターが増加していることは、ある意味泉州に観光客を呼び込むチャンスではないか。

手ぶら観光の点でいうと、関空での手荷物預かりのシステムができていますので、泉州エリアの観光はそれも活用できる。

また、SNSをどううまく活用して情報発信するかが重要になってくる。

あまりお金をかけずにできることから進めていくのもいいと思う。

○副委員長

第2次観光振興計画を策定するときには、国内からの観光客に主軸を置いて、海外はそのあとというふうに記憶しているので、整合性が取れないのでは？

○事務局

残念なことには、国内からの観光客を呼び込むという点においても大きな成果が出ているわけではないが、関西空港にたくさんの外国人が来ているのに岸和田市は素通りされているという現実があるので、国内をないがしろにするわけではないが、そこにまずは対策を講じたい。

○委員

少し方向性が変わったと理解したらよいか。

○事務局

そのとおり。

○委員

城を中心に活性化するという事は、WiFiを設置することでいいのか。

○事務局

WiFiについて観光客の受入体制の整備という点では、重要な位置づけにあるという認識はあります。近年の動向を確認すると、SIMカードやWiFiルーターの普及もあり、お城への設置については費用対効果を勘案して行いたい。

○委員

逆に外国の観光客はWiFiのあるところにやってくると聞くので、先に投資をするという考え方もあると思う。

○委員

インバウンドは体験する参加するイベントが好きだと思うので、岸和田も取り入れないと。

○委員

誘引は祭りであれ、城であれ、何でもいいと思う。ただ関空にたくさんの方が降りているんだからそれを捕まえないともったいない。泉州地域のエリアにはたくさん資源があるんだからこだわらずにやってほしい。

○委員

資源や魅力を活かすには、この場で集まった人たちの横のつながりも重要になってくる。

○委員長

インバウンドを岸和田に呼び込むことには全く反対ではないが、インバウンドをよく思わない人もいるという負の側面もあることを認識しつつ、いろんな方向性を定めて行ってほしい。

(6) 閉会

次回の委員会は、平成31年中に3回を目処に行う。また日程が決まれば連絡予定。